



「新刊紹介 8月号！！」

「僕の涙がいつか桜の雨になる」 犀川 みい



ある事情で転校した葉は、幼馴染みで初恋の相手である葉桜と再会する。なぜか冷たくされるが、彼の「涙の秘密」を知った葉は、葉桜を助けるために来春までの思い出作りをすることにして・・・。

「糸」 林 民夫



北海道で生まれ育った高橋漣は、花火大会で出会った園田葵の一目惚れ。彼女が養父から虐待されていることを知るが、まだ中学生の漣には何もできなかった。それから八年。漣は地元のチーズ工房で働き、葵は東京にいた。遠い空の下、互いを思いながらも、すれ違いと別れを繰り返す二人。それぞれの人生を歩んできた男女が、再び巡り逢うまでの物語。

「いじめを本気でなくすには」 阿部 泰尚



いじめを「いざこざ」と言い張る学校、責任回避に専念する教育委員会、不可解な第三者委員会—無責任な大人たちが被害を加速させている。SNS普及で深く潜り込み、巧妙化する現代のいじめに、私たちができることはなにか。6000件超の相談を無償で受けていた探偵がもう一人も犠牲者を出さない、という決意のもとに、本気で対策を考える。

「本好きの下剋上」 香月 美夜



本の少ない異世界で、本を作るために奔走する少女・マイン。ようやく紙作りが上手くいったのもつかの間、「身食い」と呼ばれる病に倒れてしまう。周囲の助けもあり、少しずつ元気を取り戻すが、この病には秘密が隠されていて・・・。

「さよなら世界の終わり」 佐野 徹夜



僕は、死にかけると未来を見ることができる。校内放送のCreepを聴きながら、屋上のドアノブで首を吊ってナンバーズの数字を見ようとしていた昼休み、親友の天ヶ瀬が世界を壊す未来を見た。彼の顔を見ると、僕は胸が苦しい。だから、どうしても助けたいと思った。いじめ、虐待、愛する人の喪失・・・。死にたいけれども死ねない僕らが、痛みと悲しみ乗り越えて「青春」を終わらせる物語。

「「これから」の時代(とき)を生きる君たち イタリア・ミラノの校長先生からのメッセージ」 ドメニコ・スキラーチェ



日本の新聞やテレビで話題を呼んだ、イタリアの校長先生が「休校」の生徒たちに送った「手紙」。その日本語訳とイタリア語の原文、全文公開！来への思考などが書か「休校」で家に閉じこもっている子どもたち、若者、その親、先生たちすべての人に捧げる希望の一冊です。

